

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	人文学部
学科・専攻等名	言語文化学科
コース等名	独仏語文化論コース

学部(学科)の教育目的(具体的に記述・箇条書き)		コースの教育目的(具体的に記述・箇条書き)								
学部の教育目的:時空の広がりの中における人と社会(世界)の営為を根底から問い、それを的確に表現できる人間を養成する。 学科の教育目的:言語・文学・文化の諸相を探究し、それを的確に表現できる人間を養成する。		ドイツ語あるいはフランス語の学習を通して、独仏の言語や文学、文化への理解を深め、国際人として人類社会に貢献できる人材を養成する。								
コースのカリキュラム		コースのGraduation Policy(GP) (= GP達成のために、特に重要な事項、 = GP達成のために、重要な事項、 = GP達成のために、望ましい事項)								
授業科目名	授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。)	ドイツ語、フランス語の習得を通して、正確な読解力、文章力、コミュニケーション能力を身につける。	ドイツ語学・ドイツ文学、フランス語学・フランス文学の研究を通して、創造的な思考、理解力、表現力を身につける。	ドイツならびにフランス文化の研究を通して、人間・社会・歴史、これら相互の関わりを把握するとともに、豊かな人間性を身につける。					
現代ドイツ語概説I	現代ドイツ語の語相について概説する。	ドイツ語はどのような特徴を持った言語なのか、現代ドイツ語学とはどのような学問なのか理解してもらう。								
現代ドイツ語概説II	現代ドイツ語の語相について概説する。	ドイツ語はどのような特徴を持った言語なのか、現代ドイツ語学とはどのような学問なのか理解してもらう。								
ドイツ語学特殊講義	Ossi,Wessi, Doppelpass, Teuroなど最近20年間にドイツのマスコミで話題となったキーワードを取り上げ、社会変化との関係を説明して行きます。	ドイツ語の語構成の仕組みを知るとともに、現代ドイツの社会に関する理解を深める。								
ドイツ語学特殊講義	日本人とドイツ人との間の異文化間コミュニケーションに関する諸問題を論じます。	日独異文化間コミュニケーションに関する知識を見につけ、異文化理解を深める。								
ドイツ語学演習(3・4年生)	ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。	ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつける。								
ドイツ語学演習(3・4年生)	ドイツ語で書かれたドイツ語学の文献を読む。	ドイツ語学に関する知識を深めるとともに、ドイツ語で書かれた専門文献を一人で読みこなせるだけのドイツ語読解力をつける。								
ドイツ文学特殊講義	(1)「不条理な」「不可解な」「謎にみちた」といった形容詞を付されることの多いカフカの文学ですが、言語化されないものに対し、例えば、精神分析、言語学、脱構築を始めとしたポストモダニズムといった現代の文学理論や哲学などの様々の成果を適用することで、なぜそのような「理解不可能」なものが生じるかを明確にすることができると思います。 (2)そのような視点に立って、死、女性、権力、動物などのカフカの文学の主要テーマを扱います。 (3)また近現代のドイツ文学を俯瞰できるように、リルケ、ホフマンスタール、ムージル、ハントケなどの作品や、キルケゴール、ニーチェ、ハイデガーなどの哲学にもできるだけ言及し、比較するつもりです。 (4)さらには、時間が許せば映像化されたカフカ作品を鑑賞し、言語作品の映像化の可能性についても考えてみたいと思います。	(1)カフカの文学を軸に、現代ドイツ文学に対する理解を深める。 (2)文学を理解するための方法論に習熟する。 (3)文学の社会における存在意義、また文学の歴史的意味を考察する。								

ドイツ文学特殊講義	<p>講義題目「悲劇の時代」/「悲劇」とは、日常的な意味での「悲惨な結末を持つ」芝居のことではない。古代ギリシア演劇(tragoidia)は、神、国家、家族と人間とを巡る様々な問題をテーマとした。そこでは「悲しみ」は必ずしも主題なのではない。一方で18世紀末の多くのヨーロッパの文学者は、古代ギリシア演劇を模した古典主義的な演劇を目指した。日本語で「悲劇」(Tragoedie, Trauerspiel, tragedia)と呼ばれるそうした彼らの作品も、「悲惨な結末を持つ」芝居として観客に「悲しみ」を催させるのを主眼にしていたわけではない。封建主義的な社会から近代的な市民社会への転換期にこそ多くの「悲劇」が生まれた事実を考えるならば、当然ながら、「悲劇」は自らの生まれる社会、あるいは時代と深い関わりを持っていたのであり、また、そうした時代社会への、いわば革命的な働きかけを担わんとしていたことが認識できる。本講義では、悲劇の生まれるそれぞれの時代に焦点を合わせて、主に時代とその社会の具体的な様相を解明しつつ、「悲劇」と時代意識との関係を考察していきたい。対象となる時代と場所は、前5世紀のアテネ(ギリシア演劇)と、18世紀末のドイツ(シラー、クライスト、ビューヒナー)とイタリア(アルフィエリ)である。</p>	<p>文学が人間と社会との鏡であると同時に、それらの変転を促す触媒であることを認識する。</p>									
ドイツ文学演習(3・4年生)	<p>1995年にドイツで発表されたベルンハルト・シュリンクの長編小説「der Vorleser」(「朗読者」)は、ナチスの犯した戦争の傷跡を真っ正面から大仰に捉えるのではなく、生活の面から、しかも教養をもたない女性の側から描いて、世界各国において、そして日本においても2000年に翻訳されて大ベストセラーとなった。この作品には、現代のドイツ人の心の奥にいつまでも重く残る「戦争、ナチス、ユダヤ問題」が日常生活を背景に見事に描かれ、文学のもつ可能性が十分に発揮されている。作品のドイツ語や研究書、翻訳などを読み、小説の展開上のモチーフである少年の成長、愛、文盲などの問題を絡めながら、「ナチスの問題をどう捉えるか」という現代のドイツ人にとっても重い永遠の問題を、私たちの問題として検証していく。</p>	<p>ドイツ語読解能力を養い、「現代ドイツ人にとってのナチス」という問題を学ぶとともに、文学のもつ力を味わうことを目標とする。</p>									
ドイツ文学演習(3・4年生)	<p>近代イタリアの劇作家ヴィットリオ・アルフィエリ(1749-1803)の悲劇「ミルラ」を、パウエル・ハイゼ(1830-1914)の独訳で読む。</p>	<p>ゲーテと同じ年に生まれたアルフィエリは、彼より2年遅く死んだシラーと同じように、悲劇を志した。19世紀末のドイツとイタリアにおける近代悲劇の興隆は、個人の才能に基づく個別的な現象ではなく、国民国家の成立へと向けた近代社会の革命的変化を背景に持つ、少なくとも歴史的な現象である。その理解と新たな問題提起のために、神聖ローマ帝国の盟主オーストリアの支配下にあったイタリアの、最も偉大な悲劇作家を読む。</p>									
ドイツ文学演習(3・4年生)	<p>ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化に織り込まれています。相対的な理解には文学の材料になる文化分子の知識や全体的な視野が欠かせません。この演習ではドイツ関係の情報やニュース、又は、文学・芸術作品などをドイツ文化の文脈において相応しく位置づけられるが重要です。そのために、ドイツ文化を、様々な側面において勉強していきます。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解です。</p>	<p>ドイツ語圏の歴史を始め、社会や政治制度や地理や気候、日常文化や文学などの各分野の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強します。ドイツ語の資料も含めて、ドイツ語で授業を進みます。ドイツ文化の関連した研究などを読書し、定期的に授業で紹介してもらいます。</p>									
ドイツ文学演習(3・4年生)	<p>ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化に織り込まれています。相対的な理解には文学の材料になる文化分子の知識や全体的な視野が欠かせません。この演習ではドイツ関係の情報やニュース、又は、文学・芸術作品などをドイツ文化の文脈において相応しく位置づけられるが重要です。そのために、ドイツ文化を、様々な側面において勉強していきます。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解です。</p>	<p>ドイツ語圏の歴史を始め、社会や政治制度や地理や気候、日常文化や文学などの各分野の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強します。ドイツ語の資料も含めて、ドイツ語で授業を進みます。ドイツ文化の関連した研究などを読書し、定期的に授業で紹介してもらいます。</p>									
ドイツ文学講読(小説)	<p>二年生にとっては、初級ドイツ語からの橋渡しの意味合いをもつ。ドイツ語の読解力を向上させるために、文法の復習をしながら日本語に訳していく。テキストは19世紀写実主義のオーストリアの作家シュティフターの代表的な小説「水晶」(Bergkristall)。丁寧に読んでいき、ドイツ語を読めるようにする。長い作品であるのでドイツ語で読んでいくのは半分弱であるが、併せて、この作品が名作と言われる所以を味わっていき、(Auszüge aus der Novelle von Adalbert Stifter)</p>	<p>ともかくドイツ語の読解力をつける。文学の楽しみを学ぶ。</p>									

